

# ケガの治療費を3分の2が自分で支払う

——「一人親方」制度の認知度は5.9%

JAniCA 調査

一般社団法人日本アニメーター・演出協会（JAniCA）はこのほど、「アニメ制作者の『ケガや事故』に関する調査」の報告書をまとめた。調査結果からは、仕事現場などでケガをしても3分の2が治療費を自分で支払っていたり、労災の「一人親方」制度の認知度が5.9%しかないなどの実態がわかった。

## 4人に1人が現場の事故でケガした経験が

それによると、仕事現場で事故に遭い、ケガをした経験が「ある」のは24.7%で、「自分はないが見聞きしたことがある」は35.3%だった。「ない」との回答は38.8%となっている。また、仕事現場の行き来の間にケガをしたことは30.6%が「ある」と回答。「自分はないが見聞きしたことがある」も32.9%いた。「ない」は36.5%だった。

## 疲労・過労や睡眠不足、長時間労働がケガの要因に

ケガの治療費については、「自分で払った」が65.0%と突出して高く、次いで「保険会社が払った」と常備品で対応したり自然治癒で済んだなどの「支払いなし」（ともに10.0%）が続いている。仕事上での事故原因を自由記述で尋ねた結果を見ると、内的要因として「疲労・過労」「睡眠不足」「長時間労働」を指摘する声が多かったほか、外的要因として「交通事故」や「スケジュール」を指摘する回答も一定数見られた（表）。

## 保険未加入の理由は「負担をしたくないから」

万が一に備えている対策（複数回答）は、「民間保険への加入」と「貯金をしている」が多く見られたほか、「何もしていない」との回答も少なからずあった。民間保険については、「生命・終身保険」（32.9%）や「傷害保険」（12.9%）への加入割合が高く、保険料の年額は「3万円以上」が56.5%で過半数を占め、「1万円以上3万円未満」（23.9%）、「1万円未満」（19.6%）が続いた。その半面、保険に全く加入していない人の理由では、「保険料の負担をしたくないから」が多かったほか、「自分の働き方に合ういい保険がないから」も一定数見られている。

調査は「現場の状況をよくするために思うこと」を自由記述形式で尋ねている。回答を眺めると、長時間労働の是正や賃金・単価アップ等の処遇改善を求める訴えが多かったことに加え、保険に関しても「社会保険の適用を当たり前にする」（原画、作画監督）や「年金や保険の保証が会社からあればいい」（動画）、「なるべく安い、入りやすい保険があればいい」（仕上）、「事故にあった時、きちんとした対応を教えてもらえるように欲しい」（背景美術）、「社会保険の加入を補助してほしい」（制作進行、演出）などの要望が寄せられていた。また、「ほぼ出来高払いなので、事故で描けなくなったら生活をどうしたら良いか分からない」（作画監督、原画）、「保険などを考え

られる時間的・金銭的余裕が欲しい」（同）、「生活できていない人に保険は入れというの酷な話だと思う」（背景）といった訴えも見られた。

## 「一人親方」制度は94.1%が「知らない」と回答

こうした実態のなか、労災保険の「一人親方」制度については94.1%が「知らなかった」としており、同制度の認知度は5.9%に過ぎないことも分かった。同協会はこうした結果を、労災保険の特別加入制度の見直しを審議してきた労働政策審議会の部会で明らかにするとともに、2020年10月には田村憲久・厚労相に要望書を提出。労災保険の特別加入制度にアニメーターなども加えるよう求めていた。

調査は2020年9月、アニメ製作従事者を対象に無記名のWebで実施したものの（有効回答85件）。

表 アニメの仕事での事故の原因はなんだと思いますか？

要因	分類	個数
内的	疲労・過労	24
	睡眠不足	22
	長時間労働	10
	注意散漫	4
	長時間座り続ける	2
	運動不足	2
	精神的余裕のなさ	2
	慣れない描き方	1
	多忙	1
	外的	交通事故
スケジュール		5
通勤		4
無策		3
低賃金		2
施設・設備		2
その他	その他	6
	なし	3
	総計	99